

【授業改善推進プラン 5年 国語】

児童の状況	【全体】 ○漢字を覚えることに苦手意識のある児童が少数いる。文章の読み取りはできる児童が多いが、自分の考えを文章にまとめたり筆者の主張を文章にまとめたりにすることが苦手な児童が多い。 【話す聞く】 ○目的や意図に応じて人前で話す力に個人差がある。1回の指示で情報を正しく聞き取ることに課題のある児童が複数いる。 【書く】 ○目的に応じてまとめた文章を書く力が弱い。詳しく説明するなど文章を長く書くことができない。 【読む】 ○読書する本の選択に差がある。長文小説から歴史等の児童、料理のレシピや絵本等、読む文章量に違いがあり、物語文を読んだ際の読み取りにかかる時間や読み取り方に差がある。 【言語】 ○児童によって語彙力に差がある。
指導についての課題	【読む】 ○文章の内容を正確に読み取る力に個人差がある。 【言語】【読む】【書く】 ○新出漢字や言語事項、文章の読み方・書き方などの基礎的・基本的事項を児童が身に付けられるように、授業内で繰り返し指導していく必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	【全体】 ○児童から出た「問い」を大切にし、そこから授業を組み立てるようにする。 【読む】【書く】 ○自分の考えを書く時間を確保する。 ○読み取ったことを意見交流する場を設ける。 【言語】 ○授業内に毎時間、漢字の学習や言語活動を取り入れる。
読み解く力の育成	【読む】 ○文章中の主語や述語、目的語、指示語などを確認する。 ○特に「読み解く力」を育てることが中心の学習では、音読をする時間を授業内で設ける。また発問をしたり児童同士で考えを共有したりする活動を通して、文章の内容を児童がイメージできるようにする。 ○文章に対して、自分の考えと考えた理由を明確に書くことができるように指導する。児童同士で考えを共有し合い、考えを深め合う活動を取り入れる。 ○討論形式の学習を取り入れる。

【授業改善推進プラン 5年 社会】

児童の状況	○社会的事象について、主体的に学習問題を解決しようとする児童が多い。 ○基礎的資料から情報を適切に調べる技能は身に付いている児童が多いが、複数の資料から複合的に情報を得たりまとめたりすることに課題をもつ児童がいる。 ○世界の主な大陸や海洋、国々の名称や位置などにおいて、定着の不十分な児童がいる。 ○都道府県名など既習内容が十分身に付いていない児童がいる。 ○学んだことを文章や図などでまとめる力が弱い。
指導についての課題	○問いや学習問題に即した内容を基礎的資料から読み取るように指導することを引き続き行い、目的に合わせた活動ができるようにする必要がある。 ○既習内容をミニテストなどで繰り返し想起させる必要がある。 ○新聞やノート見開きなどで学習内容をまとめる方法を指導する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○地図帳や資料集を用いて地図に触れる機会を増やし、世界の国々の場所などを繰り返し確認していく。 ○必要な情報を教科書から読み取れるようにしていく。情報から読み取ったことをノートに書き出したり発表し合ったりする機会を増やす。 ○教科書やICTを活用して文献を使って調べられるようにする。 ○まとめ方を具体的に指導したり、例示したり、手本となる児童のものを参照させたりする。
読み解く力の育成	○習得する必要がある語句は、教科書を用いてその意味を確認できるようにする。 ○図表を正しく読み取れるように、基本的な読み方を随時指導する。また図表から分かる社会的背景について考えるように投げかけ、児童同士で考えを共有し合い、発表し合えるようにする。 ○自分の考えと他者の考えを比較する場面を積極的に取り入れる。 ○教科書の文章とグラフ、表などを対応させて読み取らせる。

【授業改善推進プラン 5年 算数】

児童の状況	○全体的に数学的思考、理解力が低い。 ○得意とする児童と苦手とする児童の意欲の差が大きい。 ○基礎的な計算力や数学上の定義などが十分に身に付いていない児童が多い。 ○新しい問題の解き方を考える際に、習ったことを活用したり筋道立てて考えたりする力、言葉・式・絵や図などを用いて解き方を表す力が不十分である。 ○自分の解き方をわかりやすく伝える力が不足している。 ○他者の解き方の説明を聞いた際、自分の考えと比べ疑問点を意見として述べたり質問したりする力が不足している。
指導についての課題	○授業のゴールが明確になるように、授業始めの「めあて」を常に工夫する必要がある。また、振り返りにおいて、「分かったこと」「難しかったこと」など振り返る視点が示されていないことがある。 ○問題を解くための方法を身に付けさせるために、指導の工夫が更に必要である。 ○困っている児童に対しての支援方法を更に研究する必要がある。 ○児童の表現力（特に対話的な話し合いの仕方）を高めるための具体的手だてを更に増やす必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○授業のゴールがよく分かるよう、「めあて」の文言を工夫する。 ○授業の初めの問題を工夫する・電子黒板や書画カメラを活用することを通して、児童の興味・関心を高める。 ○問題解決において、既習事項をどのように活用すればよいか見通しをもたせる。 ○困っている児童を適宜集め、個に合わせた具体的なアドバイスを送る。 ○集団解決（グループ解決）の時間を多くとり、相手意識をもって順序や言葉を選んで説明できる場を設定する。 ○ノートのかき方・発問や解法でよいものを取り上げ全体に示すことにより、グループ全体の表現力・思考力の底上げを図る。 ○児童が解決法を説明する際、価値のある発言や質問を取り上げ、よい点を具体的に示す。 ○視点を明確に示すなどして、振り返りをより充実させる。 ○デジタルドリルなどを活用し、個に応じた習熟を推進する。
読み解く力の育成	○文章題の内容を確実に理解させるために、「わかっていること」「聞かれていること」に線を引かせ全体で確認する。また、必要に応じ数直線や線分図、絵などを利用し、文章題理解の一助とする。 ○問題を一人一人が考えた後、解決法を書いたノートを児童同士で読み合う時間を設け、他の児童が考えた解決法を読み取る力を伸ばす。

	○解き方を発表する際、初めに児童の解き方を書画カメラ等に写す。そして、どのように解決したのか考える時間を設け、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。
--	--

【授業改善推進プラン 5年 理科】

児童の状況	○実験や観察には意欲的だが、課題を解決できるような実験計画を立てる 力に個人差がある。 ○実験・観察結果を比較、分析したりしてわかることや考えられることを表現する力が不足している。 ○事象から疑問を見出したり、調べたいことや実験して確かめたいことを意欲的に発想することができる児童が多い。
指導についての課題	○児童が自力で実験計画をたてたり、疑問を解決することができるよう指導方法をさらに工夫していくことが必要である。 ○自分で解決方法を発想できない児童のために、支援の仕方を研究する必要がある。 ○児童の表現力を高めるための具体的手だてを更に増やす必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○実験方法やその手順を自分たちで計画できるよう、自分でたてた予想や仮説を確かめるための活動となっているかを指導・助言する。 ○児童の意欲や、自分たちで疑問を解決したいという思いを高められるよう、身の回りの不思議な事象を提示して授業の導入を行う。 ○予想や考察の書き方の例やポイントなどを具体的に示す。
読み解く力の育成	○実験方法や実験結果を、図を用いて表すようにする。 ○疑問に思ったことに対する予想や、実験結果をもとにどんなことが言えるかを考え、表現する活動を行う。 ○観察、実験の結果を表やグラフに整理したり、予想や仮説と関係付けながら文章でまとめてノートに記述したりする活動を取り入れる。

【授業改善推進プラン 5年 音楽】

児童の状況	○既習の知識や技能を活用しながら、自分に合った方法を選んで表現を工夫することに課題が見られる児童がいる。（知識・技能） ○音楽を聴いて感じ取ったことや自分の表現意図をもつことはできる一方で、音楽を形づくっている要素を根拠として曲や演奏のよさを捉えたり、表現の工夫について考えたりすることに課題が見られる児童が多い。（思考・判断・表現） ○他者と協働して意欲的に学習活動に取り組む児童が多い一方で、他者の考えや表現を受けて自分の学習方法や表現を見直したり、よりよい方法を選択したりする自己調整に課題が見られる児童もいる。（主体的に学習に取り組む態度）
指導についての課題	○児童が既習の知識や技能を活用し、自分の課題に応じて練習方法や表現方法を選択できるよう、複数の学習方法を示したり、自ら選択したりする機会を設定する必要がある。 ○感じ取ったことや表現意図と、音楽を形づくっている要素とを関連付け、音楽的な根拠をもって曲や演奏のよさを考えたり、表現を工夫したりする学習機会を充実させる必要がある。 ○他者の考えや表現との比較を通して、自分の考えや表現のよさや課題に気づき、学習方法や表現を見直す自己調整の機会を設定する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○児童が自分の課題に応じた学習方法を選択できるよう、教師による助言、友達との協働、モデル演奏や動画教材の活用など、複数の学習方法を用意し、選択・実践・振り返りを行う機会を設定する。 ○「どのように感じたか」「音楽のどこからそう考えたか」「その特徴を表現にどう生かすか」という観点で考えたり伝えたりする活動を設定し、感じ取ったこと・音楽的な根拠・表現の工夫を関連付ける。 ○他者の考えや表現について「よいと思ったところ」「自分の考えや表現に取り入れたいところ」という観点で交流し、交流後に自分の考えや表現、学習方法を見直す機会を設定する。

【授業改善推進プラン 5年 図工】

児童の状況	○ノコギリ、カナヅチ、彫刻刀などの用具や、絵の具、パステルなどの画材、木材、紙粘土などの材料など、既習事項はある程度経験がある。しかし、そのような知識や技能の定着には児童間に差がある。（知識・技能） ○自分なりに作りたいものを考えることが好きな児童が多い。しかし、発想内容に偏りがあったり、既成の表現に頼ってしまったりする児童もいる。また、自分の作品を客観的に見ることができず仕上がりや完成度が不十分な児童もいる。（思考・判断・能力） ○以前と比べ、お互いを認め合う雰囲気ができつつあり、各自の表現を深める児童が増えてきているが、粘り強さに課題がある児童もいる。（主体的に学習に取り組む態度）
指導についての課題	○表現を深める意識が低い児童や、技能の定着が十分ではない児童に向けた、より効果的な個別の指導の技術や言葉かけ。 ○児童の発想力を高めることができるような声かけや授業の設定。
授業改善にむけての具体的方策	○めあてに向かって意欲的に活動できるように、テーマや材料を変えながら段階的に経験したり、経験を組み合わせで工夫できるような題材設定を行う。 ○児童が思い描くイメージを確かめるための個別の会話を大切にする。自分の考えが形になる達成感につなげる。 ○技能を活用していくために、各題材で既習事項を振り返る時間や、既習事項を生かしている児童の作品紹介などを行う。 ○各題材に色々な形式・タイミングで鑑賞の時間を設けることで、児童の客観的な判断力や鑑賞の力を伸ばす。 ○色々な発想を取り入れられるよう、クロームブックを児童自身の判断で使い、調べることができるようにする。 ○教師の板書から、児童が自身でめあてを設定し、その時間の取り組み目標をもつ。併せて、そのめあてをもとに、その日の活動を振り返る活動を設定する。

【授業改善推進プラン 5年 家庭科】

児童の状況	○学習に興味・関心をもって取り組む児童が多い。 ○生活経験の差があり、手際よく作業が進められる児童とそうではない児童がいる。 ○裁縫において、手先を使うことが少なくなっている児童もおり、かかる時間の個人差がある。 ○調理において、家庭でよく取り組んでいる児童と全く取り組んだことのない児童がおり、個人差がある。
指導についての課題	○裁縫の授業において、手先の器用さに個人差があることを踏まえた上で、授業展開を工夫したり、個別の課題を用意したりする必要がある。 ○調理実習の授業において、事前準備や流れの確認等は別の時間に行い、時間にゆとりをもって落ち着いて安全に行うことができるようにする。
授業改善にむけての具体的方策	○動画などを用いて、児童が学びに興味関心をもてるようにする。また習得する必要がある知識・技能と日常生活とのつながりがもてるように、授業展開を工夫する。 ○実演、ＩＣＴによる動画などを活用し、視覚的な支援を充実させる。 ○保護者ボランティアの協力により、個人のつまずきを支援する。 ○児童同士の学び合いを積極的に行わせ、技能を高められるようにする。

【授業改善推進プラン ５年 体育】

児童の状況	○興味・関心をもって学習に取り組む児童が多い。 ○めあてを意識して学習に取り組もうとする児童が多い。 ○体力テストの結果から、特に持久力や筋力、瞬発力において課題が見られる。 ○バトンパスなど、基本的な技能の定着に課題が見られる。 ○習い事などによって運動能力に個人差の大きい種目がありそうである。
指導についての課題	○基礎的な技能を定着させられるような手だてが不足している。 ○運動量を確保するための授業展開を検討する必要がある。 ○自己調整型学習を取り入れていくにあたり、技能の習得との両立を考える必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○準備運動の時間を10分程度確保し、持久力や筋力を高められるような運動を取り入れる。 ○めあてを確認し、解決に向けてスモールステップで技能を身に付けられるように、場や時間を設定する。また、振り返りの場を設ける。 ○学習カードや資料、学習展開や学習形態を工夫することで、互いの動きを見合ったり教え合ったりすることができるようにしていく。 ○必要に応じてタブレット端末で課題に沿った動きの動画を撮り合い、自分の動きを振り返って課題を見つけさせ、解決に向けて取り組ませる。 ○個人目標をもたせ、自己調整型学習を取り入れる。
読み解く力の育成	○器械運動などでは、手本動画の動きと自分や友達の動きの相違点を見付ける力を育む。

【授業改善推進プラン 5年 総合的な学習の時間】

児童の状況	○学習に対し、意欲的に取り組む児童が多くいる。 ○見通しをもって調べ学習を進めたり、単元を通して粘り強く取り組んだりすることに課題のある児童が複数いる。 ○他者と協力して取り組むことに課題を持つ児童がいたり、配慮を必要とする人間関係があったりする。 ○（削除）調べたことや考えたことを発表したり表現したりすることに、課題が見られる。 ○より良い方法を模索することに意欲がなかったり、方法を知らなかったりする児童が多い。 ○課題解決に向けたツールとして、I C Tを用いて調べようとする児童が多い。その一方、文献を活用することが難しい児童がいる。また調べたい内容に合う図表を見つけることに時間がかかったり、内容に沿わない資料をもってきたりする児童もいる。 ○適切な「問い」を見付ける力の弱い児童が多い。
指導についての課題	○単元を通して児童の意欲を持続させるための手だてを、検討する必要がある。 ○課題に対して探究を続け、自分なりに答えを導き出すための手立てを、検討する必要がある。 ○協働するよさを体験させるような指導が必要である。 ○グループ分けは配慮が必要。 ○向上心をもたせ、推敲の機会を与えるような指導の工夫が必要。 ○思考力や表現力を高めるための手だてを、検討する必要がある。 ○適切な問いを見付けさせること。
授業改善にむけての具体的方策	○課題に対して「自分と身近な問題である」と捉えることができる手立てを工夫していく。 ○児童がテーマに対して探究を続けることができるように、効果的な方法で声かけや助言をしていく。また単元の途中で繰り返し振り返りを行い、学習の進め方や内容をより良いものにしていくことに児童自身が気付けるようにしていく。 ○必要に応じて思考ツールやI C Tや文献等を活用し、調べたいことを調べることができるようにする。 ○様々な発表方法や発表形態を経験させることを通して、表現力を育成していく。 ○適切な問いの条件を提示する。
読み解く力の育成	○調べて得た情報を整理・分析する力の育成。

【授業改善推進プラン 5年 外国語】

児童の状況	○積極的に外国語に慣れ親しもうとする児童が多い。 ○身に付けた力を生かして伝え合おうとしている児童が多い。 ○外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いてきている。その一方で、コミュニケーションを取る相手が限られている児童も見られる。
指導についての課題	○外国語に対して苦手意識をもっている児童には、普段の授業の中で外国語に慣れ親しむ時間を意図的に設ける必要である。 ○教員の指導力の向上を図るとともに、A L Tと連携を図りながら指導にあたる必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○A L Tと打ち合わせを密にし、役割分担を明確にした上で、より効果的な授業展開になるように工夫する。 ○デジタル教科書を用いて、外国語の発音を聞かせたり、発話の練習をしたりする機会を多く設ける。 ○児童同士で交流する機会を多く設けたり、A L Tや教員と1対1で対話する機会を設けたりして、外国語に触れる機会を増やす。 ○ゲーム性を取り入れ、楽しみながら外国語に触れる機会を増やす。
読み解く力の育成	○デジタル教科書を活用し、絵を見たり音声を聞いたりして、視覚的に内容理解を促せるようにする。必要に応じてA L Tや教師が補足の発問をして、学習内容について考えることができるようにする。 ○様々な場面で習得した表現に繰り返し慣れ親しみ、自分の気持ちや考えに必要な表現の習得につなげる。

【授業改善推進プラン 5年 特別の教科 道徳】

児童の状況	○道徳的価値について考えたり、話し合ったりすることに対して意欲的な児童が多い。 ○教材を通して道徳的価値を学んだことを、その他の場面や実生活に結びつけて考える力が不足している児童がいる。 ○道徳的価値を学んだ後、日常生活において実践しようとする意欲はあるが、その意欲が継続しない児童もいる。
指導についての課題	○授業と実生活を結び付ける手だてが不足している。 ○授業で学んだことを継続させるための手立てが不十分である。
授業改善にむけての具体的方策	○朝の会や帰りの会などの機会を捉えて、授業と関連付けた指導を行う。 ○必要に応じて I C T を活用し、教科書教材に登場する人物の紹介や、教材の内容を理解するための補足となる動画を見せてイメージをもたせる。 ○めあてを示し、めあてに対する振り返りの時間を 5 分程度設定する。 ○教材文で学習した後、日常生活で起こりうる場面や導入での発言を具体的に取り合げて考える時間を設定する。 ○振り返りの中で、教材文からの学びを入れて、今後の自己の生き方を考えるように指導し、教材と実生活とが結び付くようにする。
読み解く力の育成	○発問などを通して、児童が読み物資料の内容を理解できるようにする。また必要に応じて、動画や写真などを見せることで、読み物資料の内容の理解を深めることにつなげる。